

多剤処方の問題について

市国民健康保険戸島診療所、嘉島診療所 所長 野村 正孝

高齢になると病気の数だけ薬が処方されるようになりま
す。多剤処方とは、薬物有害
事象のリスク増加や服薬過誤
を始め、服薬遵守低下などの
問題を引き起こす可能性があ
る状態のことを指します。

多剤処方の最大の問題点
は、「有害事象の発生」です。
ふらつきや転倒、意識障害、
低血糖、肝機能障害などが上
げられます。骨折を起こすと、
QOL(生活の質)を大きく低
下させることもあります。ま
た、多剤投薬は薬剤費の高騰
にも関係しています。

■多剤処方の解決に向けた
5つの対策
▼お薬手帳の活用
できれば、一元管理が望ま
しいです。

▼高齢者への対策
高齢者は生理的な変化に

よって、薬剤同士の相互作用
が起こりやすいため、多剤処
方の改善が強く求められてい
ます。

▼減薬

現在では、症状の抑制を優
先して、薬剤を処方すること
が多く、症状が悪化した場合
は、薬剤の種類や量が増える
傾向にあります。しかし、服
用する薬剤の種類や量に比例
して、有害事象のリスクが高
まるのが分かり、「減薬」の
必要性が認識されるようにな
りました。

▼残薬管理

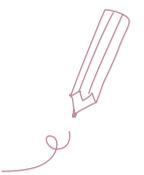
多剤処方と同時に、処方さ
れた薬剤の飲み残しである
「残薬」も大きな問題になっ
ています。残薬の発生を防ぐた
めには、薬剤師による服薬情
報管理が不可欠です。

▼患者とのコミュニケーション
多剤処方の問題を解消する

ためには、「患者とのコミュ
ニケーション」もかせませ
ん。また、「薬をたくさん処方
されないと不安」と感じる人
が多いことも多剤併用の一因
です。副作用の危険性や減薬
の必要性を理解してもらうの
も、かかりつけ医、薬剤師に
とって重要な責務です。

特に内科系のかかりつけ医
の先生は、患者への投薬には、
一番注意を払うことができます
位置にあります。普段の症状
以外に、別な症状が出た場合
には、他科にかかってお薬を
別にもらっていないか、確認
する必要があるでしょう。こ
れは、地域医療の問題だと思
われます。

余暇のひととき



吉田川柳会

コロナには負けてなるかとウォーキング 荒木 孝二
悲しいねマスクポイ捨て増加とは 加賀山一興
普段着の似合う人だなあったかい 金子すずむ
学校で壕に逃げ込み生きて今 西田 裕至
風呂上がりヨガの筋トレ続けそう 日野 厚生

つしま短歌会

病院の屋上にひびくバイオリン医療従事者に
感謝をこめて 首藤 千晶
乾燥機の熱とほこりにまみれる夫の髪の毛
泡立てて洗う 中村 美鈴
ウイルスに籠りるる日々庭に出で 培ふ野菜を
楽しみに過ぐ 西崎美紀子
君が乗る夜釣りの舟か風立ちて漁火はるか沖
にゆらげる 清家 幸子

渋柿ふじ句会

橋の影乱す水輪や散紅葉 吉見さつき
赤き芽に冬の日差しに柔らかし 森田 寿美
冬風やひた走る漁船軽やかに 二宮美千代
灯のともる島への橋や冬の暮れ 二宮リエ子
冬ざれに深閑とする山の里 萩森 理枝
博物館の空間と時間冬ひと日 浅尾美津子
寄鍋や青春談議尽きもせず 齊藤 早苗
甲高き声も混じる寒稽古 原田 権左
鶴髪を手櫛で撫でる雪女郎 秋田 泰造
手袋を落して捜した小樽かな 宇都宮伊明
目を閉じて臘梅の香に行みぬ 三原 美加

かなな句会

からすうり垂れて邪念のなかりけり 片桐八重子
冬すみれ何時しかははの声忘る 川崎 敬子
茶の花も嘘もしづかに零れるる 木熊 公子
十二月八日机辺の塵拭ふ 福島 厚子